

(Ⅰ) 分科会「各教科の指導(小学校段階)」

テーマ:各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

美咲特別支援学校 教諭 ○○○○

事例:「教科書を活用した国語の授業」

1. 実践について

(1) 実践のねらい

系統立てられている『☆本』や『ゆっくり学ぶ子のための』の教科書を使用することで、子どもたちの段階目標に応じた授業を行うことができる。

(2) 取組の内容(取組事例、対象、方法等)

対象:小学部6年 小学部2段階目標の児童5名

方法:☆本を活用しての授業

取り組み事例:小学部6年生なので小学部3段階の学習を履修しながら、個人目標を小学部2段階に設定している児童に対する国語の授業で行った。

例えば、『かめのこ。いしのうえ。』では「A 聞くこと・話すこと3段階目標 カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。」の目標を「相手の話に関心をもち、相手の考えを受け止めることができる。」として、「うえ」「した」助詞の「の」を学習した。相手の考えを受け止める活動を深めるため宝探しの活動を行った。その際に「机のした」や「棚のうえ」など学習した内容と日常に使う単語とを組み合わせることで生活に根ざした授業づくりになることを意識した。

2. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

(取組についての評価等)

(1) 成果

- ・教科書に沿って進めることで系統立てて指導することが容易になった。
- ・教えた内容が分かりやすいため、授業準備や教材教具の研究時間が短くなり、子どもたちに関わる時間が増えた。
- ・引き継ぎの際にどこまでやったかの確認がしやすい。
- ・年間を通しての授業の見通しがもちやすい。

(2) 課題

- ・教科書(☆本やゆっくり学ぶこの)が無い教科はどうするか。
- ・教科書の内容だけでは理解が難しい時に、学びを深めるための活動を考える必要がある。
- ・同単元異目標の子どもたちに合う授業展開を考えるのが難しかった。

(3) 共有したい悩み

- ・内言語はあるが、発語が少ない児童に対してどのようなアプローチをしているか知りたい。
- ・生活年齢に合わせた指導の中で段階を落とした目標の子たちの活動はどのようにしているか。待つ時間が長くなってしまう。

(Ⅰ) 分科会「各教科の指導(小学校段階)」

テーマ:各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

美咲特別支援学校 教諭 ○○○○

事例:「 教科横断的な指導について 」

Ⅰ. 実践について

(1) 実践

学習指導要領内容の効果的で効率的な学びに向けての実践

(2) 取組の内容(取組事例、対象、方法等)

小学部6年生

〈行事に向けての授業展開〉

修学旅行に向けて、生活科(日課・予定、役割、基本的生活習慣)・算数科(時計)・国語科(聞くこと・話すこと)・図工(A 表現ア(イ))・特別の教科 道徳(主として人との関わりに関すること)などを同時期に実施。

Ⅱ. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

(1) 成果

従来の生活単元学習での取り組みから教科の視点での行事への取り組み方を考えた。教科の資質能力を明確にして指導することができた。

(2) 課題

年計を立てる段階で教科等横断的な視点をもって編成できたらより色々な教科等を関連させて授業を行えたのではないかな。

(3) 共有したい悩み

前年度担当の教員が作成した年計を今年度、特に引き継ぎがないなどの理由で新しい教員が指導する場合に授業構成するにあたり難しいことがある。他校の年計作成の方法が知りたい。

(Ⅰ) 分科会「各教科の指導(小学校段階)」

テーマ:各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

美咲特別支援学校 教諭 ○○○○

事例:「 算数:かぞえよう～100までのかず～」

1. 実践について

(1) 対象児童 小学部3段階 小学部5年生4名(算数専科抽出)

(2) 単元について

①教科・単元名: 算数・かぞえよう～100までのかず～ (さんすう☆☆☆)

※前単元は「かぞえてみよう～20までのかず(10といくつ)～」

②単元の目標・評価規準

単元の目標	評価規準
(知・技) ・100までの数について、数唱を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解することができる。(小3段階 A ア(ア)㉔) ・数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすることができる。(小3段階 A ア(ア)㉕) (思判表力) ・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。(小3段階 A ア(イ)㉔) (学・人) ・数量の違いを理解し、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶことができる。(小3段階)	(知・技) ・100までの数について、数唱を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解している。 ・数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりしている。 (思判表力) ・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、数学的な表現を用いて表している。 (学・人) ・数量の違いを理解し、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする姿が見られる。

③単元のおおまかな流れと使用教材

単元のおおまかな流れ	使用教材
①大きなかずのかきかた(さんすう☆☆☆p16,17) ・20以上あるものを10のまとまりと残りの「あといくつ」に分けて数え、その数を言えるようにする。 ・十進法位取り記数法を学び21以上の数についてその数の大きさが分かり、読んだり書いたりすることができるようにする。 ②じゅんばんにならべましょう(算数☆☆☆p13-21) ・20以上の数を順番に数唱したり書いたりする経験を重ね数の数列の理解につなげる。 ③10のまとまり(さんすう☆☆☆p26-27) ・10を一つのまとまりとして意識し、いろいろなものを10のまとまりとして数える。 ・数の操作をしながら数あるまとまりで捉える。	○さんすう☆☆☆(p16-) ○ブロック(1ずつのブロックと10のまとまりのブロックカード) ○机上用ホワイトボード ○たくさんの絵カード(身の回りのものを数える) ○学習プリント など

④本単元の学習活動について

- ・実物や絵カード等を用いて実際に多くのものを数えたり、数を比べたりする経験を重ねる。
- ・具体物や半具体物を実際に操作し、数をまとまりで数えることに慣れるようにする。
- ・1～100までの数唱をしたり書き表したりすることを通して数の数列に慣れる。(前後の数字からあてはまる数字を推測したり、連続する数の並びを推測したりする。)
- ・多くのものを数えるときは、10個ずつまとめるとより正確に早く数えられることに気付けるようにする。(場合によっては5飛びや2飛びで数える方法があることも指導する。)

- ・10を単位とした見方は金銭の理解につながるため、お金（硬貨）を数えるなど、算数の学習と日々の生活とを関連付け、児童が算数を学ぶよさを実感できるようにする。
- ・いろいろなものを数える経験を通してものによって「個」「本」「枚」「匹」などのように数え方が異なることに気づき、数助詞を用いて表現する活動を取り入れる。

⑤本单元における児童の評価（一部抜粋）

（知・技）单元「かぞえよう～100 までのかず～」では、いろいろなものの個数を数えながら 100 までの数の数唱をしたり、表に書き表したりする活動に取り組んだ。たくさん数を数える経験を重ねることで、数の系列を理解し、0～100 までの数の表の穴埋めをすることができた。

（思・判・表）单元「かぞえよう～100 までのかず～」において 20 個以上あるたくさんものを数えたり、100 までの数をブロックで表したりする学習に取り組んだ。ブロックを操作しながら数を表すことで、10 のまとまりが何個、端数が何個で「何十何」と表すことができるようになった。また、教師と一緒に 10 までの端数を「2、4、6…」と 2 ずつ数え、手際よく数える方法があることに気付くことができた。

2. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

（1）成果

- ・前单元（20までの数（「10のまとまりとあといくつ」））を踏まえての学習だったので、20以上の数でも、10のまとまりをつくって数えることにあまり抵抗感なく取り組むことができた。
- ・半具体物を用いて数え、実際にブロック等を操作しながら数えることで児童にとって理解しやすかったと考える。



（例「64は⑩が何個と①が何個？」や「⑩が6個と①が4個で何？」などの質問に答えられるようになってきた）

（2）課題

- ・日常の中で学んだことを生かす場面を十分に設定できなかった。日常の場面で学んだことを生かす経験ができると、より学習内容が定着し学習意欲の向上につながったかもしれない。
- （生活の中でたくさん数を数える経験、実際に硬貨を扱い買い物学習をするなど）

（3）共有したい悩み

- ・どこまでを「できた」として判断して、学習を進めていくかの判断が難しいときがある。
- 例えば、計画の段階で単元の時数を決めているが、もう少しやったら定着しそうだから授業時数を増やしてやってみよう、これ以上は難しそう（評価規準を十分に達成はできていないけど・・・）だから次の単元に進もうの判断。
- ・小学部5・6年生が小学部3段階（さんすう☆☆☆）の内容を履修するが、小学部5年生で一通り学習し、小学部6年生でも同じ単元を繰り返し（児童の実態をみながら学習内容は深めつつ）学習するという考え方で良いのか。
- ・10以上の数の理解が難しい児童に小学部3段階の内容をどう取り扱っていくか。
- （障害が重い子どもへの教科のアプローチ）